

# 風力発電で いわきの山が危ない

## いわき市 12 月議会で問題点を質問

「自然と共存できての再生可能エネルギーで、自然を破壊しての風力発電はあってはならない」の趣旨で、三大明神、田人風力発電に関しては多くの山岳団体の同意をいただいて、いわき市に対して「要望書」を提出、文書での回答を得たことは既に機関紙「四方山通信」で報告しているところです。

2016 年 12 月 8 日、いわき市議会で石城山岳会々員でもある社民党の狩野光昭議員が風力発電に関する質問を行い、具体的な問題点を明らかにしました。秋葉、下山田、関内昭二、渡辺敏夫、馬場が傍聴しましたので報告します。

## 120 基以上の巨大建造物が山上に林立

(質問) 風力発電事業は再生可能エネルギーの一環であり脱原発を進めるエネルギーの一つです。しかし、再生可能エネルギーによる風力発電事業が具体化するにあたって、各地で環境破壊や超低周波での健康被害の問題が起きています。

個々の風力発電事業について市民への影響を検討し、負の遺産を残すことの無いように、事業者に求めることが必要となっています。

いわき市内で大規模な風力発電事業が次々と進められようとしています。すでに、滝根小白井ウインドファームでは 23 基中、いわき市川前地区に **13 基**が設置されています。今後の予定では、

- 三大明神風力発電事業では 2,100KW 級を **17 基**設置予定
- 田人風力発電では 3,000KW 級を **6 基**設置予定
- (仮称) 阿武隈風力発電構想では市内に 3,450KW などを **50 基**設置予定
- 遠野地区風力発電所計画では **30 基**設置が明らかになっています。

以上の事業の主な会社は(株)ユーラスエナジーで、出資者は**豊田商事 60%、東電 40%**の会



社です。

風力発電事業での電気は東京オリンピック・パラリンピック等で関東圏に電気を供給することになります。これまでの**原発の構図**と似ていませんか。

3,450 KW 級の風力発電機は羽の直径が 137m、高さ約 178.5m の仕様のもので、**マリントワーの約 2 倍**、福島県で一番高い**郡山ビッグアイと同程度の建造物が山の尾根上に何基も建設**されることになります。

建設にあたり幅約 5m の工事用道路の建設、タワーの基礎工事では地中深く掘り下げコンクリートが注入され、大規模な森林伐採を伴い、環境破壊の恐れがあります。風車が回ることでの風を切る音や低周波による健康被害も心配されます。

## 風力発電は有効な発電をしているのか

(質問) 既存の風力発電について。いわき市の所有の**鬼ヶ城風力発電**と**石森山フラワーセンター風力発電**の平成 27 年度の**発電実績とランニングコスト**は？

(答弁) 鬼ヶ城風力発電が 19151.9KW、455,042 円の発電、853,200 円のランニングコスト。フラワーセンター風力発電が 4592.5KW、109,110 円の発電、1,296,000 円のランニングコスト。

(指摘事項) 決算審査でも明らかになった様に、毎年ほぼ同じ状態であり続けるのかを検討すべき。

(質問) 県内の既存の風力発電の平成 27 年度の**発電実績とランニングコスト**について。滝根小白井ウインドファームは？

(答弁) (株)ユーラスエナジーホールディングに問い合わせたところ、発電実績は公表することにより営業上の不利益となることから、非公表とのこと。

(質問) **布引高原風力発電**は？

(答弁) 事業者である電源開発(株)に問い合わせたところ、滝根小白井ウインドファームと同様に非公表とのこと。

## 環境への影響、事故対策が不十分

(質問) 市内等の風力発電構想について。三大明神風力発電事業計画について、市の**水源保護地域**が含まれているが、どのような**影響**があるか？

(答弁) 造成等の施工により、河川に一時的な水の濁りが生じる可能性があるが、自然浸透するほか、希釈され河川と混合するため影響は小さいものと予測。また、事業者においては、地形や既存林道等を十分考慮し、**改変面積を最小限にとどめる等**、環境保全対策を講じ、環境影響の低減に努めるとのこと。

(質問) 林地開発に伴う**土砂流出等**の災害が懸念されますが、対策は？

(答弁) 造成工事は、降雨時における土砂の流出による濁水の発生対策として、仮説の沈殿池と濁水対策を先行して行う。また、樹木の伐採は最小限とし、造成により生じた法面は地表の状況に応じた緑化を行い、植性の早期回復を図るとともに、適切な場所に土砂流出防止柵を設置するとのこと。

(質問) 発電機の落雷や強風等による風力発電機の**破損・倒壊事故防止対策**は？

(答弁) 落雷の対策とし 24 時間監視センターで監視し、雷雲等が近づいた時は、停止するよう運用。

ブレードに落雷を受け止める装置や、落雷検知器の設置を計画。強風対策は瞬間秒速 70m 以上の強風に耐えられる構造であり秒速 25m 以上で自動停止するように制御する予定とのこと。

## 地元には負担のみ メリットはない

(質問) 地元雇用者の確保は？

(答弁) 建設工事を地元業者に発注することにより、間接的に地元の雇用の創出を図るほか、稼働後はメンテナンスのため、若干名の雇用を計画とのこと。

(質問) 風力発電機の耐用年数と耐用年数経過後や事業終了後、地権者に原状復帰し返還するのか？

(答弁) 耐用年数は 20 年以上とのことだが、税法上の減価償却では 17 年と規定されている。

耐用年数経過後や事業終了後は、地元関係者と協議し、事業の継続、建て替え、または撤去を検討し、撤去する場合には、原状復帰を行い返還する予定とのこと。

(質問) 福島県の調査でも「登山など自然を体験できる地域を訪れる観光客は増加」しています。市内でも震災以来激減した登山者が戻ってきております。阿武隈山系の尾根に数多くの風力発電機が設置されることで山の観光に影響を及ぼすのではと心配しています。観光に影響を及ぼさないようにすべき？

(答弁) 山の観光への影響は、登山ルートや天然記念物を始めとした文化財、自然景観等への大きな影響なども可能性として想定される。このようなことが危惧される場合は、一連の環境影響評価の手続きの中で、「景観」や「自然と人との触れ合いの場」に関する項目等で意見を述べるなど、適切に対応したい。

(要望) 三大明神風力発電の事業対象実施周辺には、1 km 以内に住居が 14 戸あり、騒音、振動、超低周波音の影響が心配されます。

また、開発による土砂流出、動植物や景観への影響も懸念されます。さらに、これほど多くの風力発電機が市内の阿武隈山系の山頂に設置されることで、山の資源を生かした観光振興に影響が出ないように注視し、事業者働きかけをとづけることが必要となっていることを訴えます。

いわき市は業者の考え方を説明するのみで、満足できる回答ではありませんでした。その理由は、「風力発電に関して、法律的には自治体は環境影響評価に意見を提出できるだけ、許認可には何の権限もなく経済産業省で決定されてしまう」ことが、この間の取り組みで分かりました。

三大明神、田人風力発電は当初の計画から幾分縮小したものの工事が始まっています。

他の地域でも風力発電に関する不安を感じている人が増えております。その人たちとも協力し、今後は阿武隈風力発電、遠野風力発電対し、説明会への参加、意見書の提出、正しい情報の発信など時宜を見て取り組み、多くの方に「風力発電の不都合な真実」を広めていきます。

(文責：秋葉)